



## 2箇所めの「いっとき保育」が谷中に

台東区  
議会議員

ほんめ  
本目さよ

発行：台東区議会議員 本目さよ 上野桜木2-1-9-6A

### 旧谷中分室でいっとき保育

谷中防災コミュニティセンターが完成し、谷中特養の大規模改修のときに使われていた旧谷中分室の使いみちが決まりました。こちらはもともと借りていた土地だったため、返すという選択肢もありましたが、様々な区民ニーズがある中でなんとか活用を！と働きかけがされていたところでした。

使い道は・・・

台東区では日本堤に1箇所しかなかった、**理由を問わずに預けることができる『いっとき保育』と『子ども家庭支援センター（あそびひろば）』**です。

場所：台東区谷中2-9-21

1階（46㎡）いっとき保育

（1～6歳 利用定員 10人/時間）

2階（55㎡）あそびひろば（0～3歳）

相談事業も実施

谷中には施設やつかえる土地が少なく、他にも必要な施設は沢山あります。しかし、いっとき保育は、私も何年も前から拡充を訴えてきた施設です。保育園の待機児童にどうしても視点がいきがちですが、それと同時に**家庭で子育てをしている家庭の支援も重要**です。

## 同性パートナーシップ制度を提案

### 本目の質問・提案

オリンピック憲章でも性的指向による差別禁止の明文化がされている。台東区では2020年の東京オリンピック開催を目前として、性的マイノリティの課題に対して、今まで、具体的にどのように区として取り組み、今後どのように取り組んでいくのか。また、文京区のように**職員や教員に対する対応指針を制定し、丁寧に取り組みをすすめていくべきではないか？同性パートナーシップ制度も含めて検討をするべき。**

同時に**教育においても、性的マイノリティへの差別解消と配慮について積極的にすすめるべき**ではないか？

と教育委員会にも提案しました。

### 区長からの回答

マイノリティの方々に対する差別や偏見によって、当事者の方々が様々な困難を抱かかえていることは、私も認識している。今後、職員に対し、これまで以上に性的マイノリティに対する理解が深まるよう、様々な研修の場で取り上げるとともに、**人権課題の一つとして「職員ハンドブック」に記載し、啓発に努めていく。**こうした取り組みを進める中で対応指針の策定について、検討して参ります。また、議員ご提案の「同性パートナーシップ制度」を含め、マイノリティの方々へどのような支援が必要なのか、他自治体の事例を参考にしながら研究を進めていく。

## リノベーションまちづくりの推進

リノベーションまちづくりと言われるこの取り組みでの行政の役割は、民間の自立性、自発性を担保した上で、連携事業における弾力的な制度運用や規制緩和などの調整、窓口機能といった支援を行うことです。このリノベーションまちづくりは、現在、北九州市、和歌山市、仙台市、浜松市、川崎市を初め、35都市で展開され、北九州市では、約2年半で、新規の創業者、雇用者を合わせ247名を生み出す効果があったとのこと。台東区では木造密集地域も多く、建築物の耐火や耐震などの安全性も非常に重要ではあります。その点を踏まえたうえで、空き家等の遊休不動産を活用したリノベーションまちづくりは、**地域の「エリア価値の向上」などを図る観点からも、民間の能力を最大限に発揮してもらう官民連携によるまちづくりを進める上でも重要な取り組みである**と考えます。台東区としても、今後積極的に、官民連携自体をすすめていくべきです。

## 区長からの回答

本区では、民間主体による、レストランや、ゲストハウス等への古い建物のリノベーション事例があり、全国各地においても空き家等の遊休不動産を活用したリノベーションまちづくりの動きがあることは認識しています。

一方で、本区におけるこれまでの空き家調査では、有効活用できる物件が少ないことや、防火性・耐震性の確保の課題があります。**リノベーションまちづくりについては、官民連携により、まちの魅力を創出し、活性化につながる事例もあることから、各地の状況や、課題を研究し、本区にふさわしい手法などを検討**して参ります。

## 妊婦超音波健診の充実

厚生労働省の妊婦健康診査の公費負担の状況にかかる調査結果によると、公費負担額は調査対象の全国平均で、102,097円であり、東京都は86,657円と全国平均を下回っています。下回っているところか神奈川県につづいてワースト2位となっており、東京都全体での妊婦健診への補助の金額が低いことがわかります。

ではなぜ低いのか？国が定める「妊婦に対する健康診査についての望ましい基準」において、その実施時期、回数及び内容が定められていますが、そこに定められている項目の全てに補助を実施できていないからではないでしょうか？何が不足しているかといえば超音波検査です。1回のみ、公費負担でできるような受診票が渡される仕組みとなっていますが、厚労省で推奨しているのは全部で4回です。

どの回も70%以上の自治体が補助を実施しています。**全国の妊婦検診の補助金額を踏まえた上で、東京都全体で上げることが望ましいとは思いますが、まずは台東区として独自に超音波検査に上乗せの補助をしていくべき**ではないでしょうか？近隣区でいえば、文京・千代田・足立・新宿区などがすでに上乗せの補助をしているところで

## 区長からの回答

東京都内の多くの区市町村と同様に、本区においても、超音波検査の公費負担は1回となっています。近年、出産年齢の上昇等により、妊婦の健康管理の充実がより一層求められているため、**今後、超音波検査の台東区独自の上乗せ補助について、検討**して参ります。



### ジンジャー と さよ



たくさん質問したのによ！



そうなの。第三回定例会で一般質問と決算特別委員会の委員をしたので、前の29号とこの30号でも書ききれないくらい質問や提案をしたのよ。



それにしても、区長の回答は結局やるってことなのによ？やらないってことなのによ？



わかりにくいよね。役所側はめったなことじゃやりません！とは言わないよ。一般的に「研究」はやらない。「検討」は前向きな方向とされているね。



とすると、超音波検査は前向きなのによ。



だね！ 答弁が、具体的であればあるほどやる可能性が高いとは言われているよ。3月議会の予算が楽しみだね。

## 本目さよプロフィール

1982年3月10日生 35歳

私立成蹊高校、白百合女子大学を経て、お茶の水女子大学大学院修了  
研究テーマは『夫婦の情緒的サポートと育児ストレスの関係』

修了後はIT系人事職として、社員が働きやすい会社づくりにつとめる。

2011年より台東区議会議員。2015年に再選を果たす。台東区では唯一の30代女性議員。

声なき声を聞くという意志と、少子高齢化への特効薬としての子育て支援に力を入れていることから

キャッチフレーズは「子育て、本命！ーやさしい政策ー」「議員のあり方」とは何か？を模索しながら区民の方々との

双方向的な取り組みを実施している。政策を実現できる超党派若手女性議員のネットワーク「WOMAN SHIFT」代表。

党籍：民進党

会派：たいとうフロンティア

資格：保育士

趣味：空手・読書

おかしづくり

好きな物：納豆・くだもの

<http://www.sayohomme.com/>

[facebook.com/hommesayo](https://www.facebook.com/hommesayo)

@sayohomme

<http://ameblo.jp/hommeisayo/>